

4 へら鮎釣りの基本動作



ここでは、へら鮎釣りに欠かせない基本動作である、振り込み、アワセ、取り込みなどを覚えてください。こういった基本動作は釣果にも影響しますので、しっかり身につけましょう。



1 仕掛けの振り込み

振り込みとは、エサの付いた仕掛けを投入することです。浅いタナの振り込みは、穂先～ウキの間が広いので、この距離だけ沖に振り込みます。上手くいかない時は立て膝で行なうとやりやすいです。穂先～ウキの間が狭いチョーチン釣りでは、目の前にエサを落とします。竿を竿掛けに置いた位置の少し先に落とします。

少し沖に打つ浅ダナ釣りの振り込み。慣れないうちは立て膝で構え、その位置からエサを持った手を離すと同時に、竿を少し上に上げる。これだけで充分。エサを飛ばすのではなく、運ぶイメージだ。



2 アワセ方の基本

アワセは竿を大きく上げる必要はなく、肩のラインよりも低い位置まで上げればOKです。構えた位置からやや前方に鋭く上げ、その位置で止めるイメージで行ないます。

構えた位置からやや前方へ腕を伸ばすイメージがアワセの基本。竿を上げるのではなく、腕を前に突き出してそこで止める。これだけで充分だ。

3 アワセ方のコツ

竿を持って構える時に、手のヒラが上を向いていると（下から持つ）どうしても手首を返してしまい、竿が大きく上がってしまいます。上から被せるように上の甲側が上になるように握ると、必要以上に強くアワセなくて済みます。



アタリを待つ時の構えを意識しよう。手のヒラが上を向いていると手首を返してしまいがちなので、上から被せるように握りたい。

4 アワセ方の悪い例

手首を返してしまうと竿が大きく上がってしまい、ヒットした時はよいですが、空振った時は仕掛けが飛びだしてしまいます。そうすると、仕掛けが絡んでしまうトラブルにもつながりますので、アワセの時に手首を返さないことを意識しましょう。



手首だけを返してアワセしてしまうとトラブルのもと。アワセた時は、手首はまっすぐになるようにしたい。

5 魚の取り込み

へら鮎がヒットしたら魚を寄せますが、強引に引っ張って寄せるのではなく、魚の引きを楽しみ、動きが少し落ち着いたところで少しずつ肘を上げるようにして引くと、魚が水面に顔を出します。そしたらテンションを緩めないように竿を後に倒すように寄せて玉網ですくいます。



魚を沖で浮かせて水面をすべるように引いてくるとスムーズに取り込める。

6 ハリの外し方

玉網ですくったあと竿をおき、道糸を持ってラインをまっすぐにしてハリの位置を確認します。へら鮎釣りのハリはスレバリですから、ハリの軸側を持ってハリのカーブと同じような軌道で引くと簡単に外れます。ハリを外したら魚を逃がします。



へら鮎のハリ掛かりの代表例（左）。この状態でハリの軸側を持って外すと簡単だ。